

水管理徹底と穂肥1回目「遅め、控えめ」 で品質向上！！

【草丈】前年並みに長い 【葉色】濃いものの低下傾向

【JA・普及センターの生育調査結果（7月15日現在）】

高温が予想されます！圃場に水を入れてください！

○7月17日頃から1週間は、高温が予想されています。

※「高温に関する異常天候早期警戒情報（7月12日新潟地方気象台発表）」

○ほ場に水を入れ品質低下を防止しましょう。

○平場では、出穂3週間前頃のほ場が多いため、常時湛水を開始しましょう。

（急激な湛水は根を傷めるため、間断灌水の後、常時湛水開始）

○ほ場が乾き過ぎると穂肥を吸う「うわ根」を傷め、品質・収量が低下するため、山場等で間断湛水中の場合には特に注意しましょう。



ほ場を乾かし過ぎ、大ヒビを入れると「うわ根」が切断されます。

穂肥1回目は「遅め、控えめ」で倒伏防止！

○草丈が長く、葉色は退色傾向のもの濃いため、穂肥1回目は遅め（出穂15日前）控えめの施用としましょう。

※ 幼穂1cmで出穂18日前です。必ず幼穂を確認して穂肥を施用しましょう。

○1回目の穂肥を散布出来ず、葉色が淡くなった場合等は、2回目をやや早め、やや増量して散布しましょう。

※有機質割合の高い肥料を使用する場合は2日程度早めに散布しましょう。（2回目の穂肥も同様）

【出穂予想】 ※前年並み～やや長い

| 区分 | 移植日 | 出穂予想 |
|-------------|-------|-------|
| 品質向上実証圃(藪神) | 5月20日 | 8月5日 |
| 小 出定点 | 5月25日 | 8月6日 |
| 入広瀬定点 | 5月26日 | 8月10日 |

【出穂18日前（幼穂長：1cm）の生育指標】

草丈：75cm以下

茎数：430本/m²（22～24本/株（60株植え））

葉色：3.5以下（葉色板 群落）

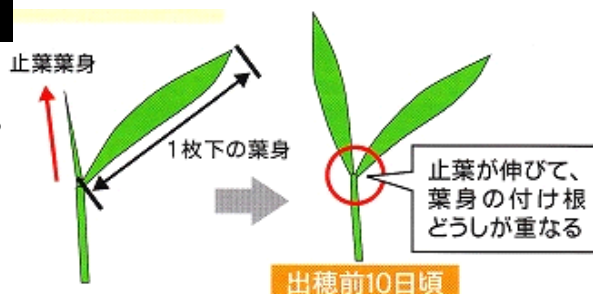
※ 出穂予想は随時変更されます。最新の出穂予想を携帯メール稲作情報で配信しますので、活用してください。



穂肥2回目は「しっかり施用」で品質向上！

○2回目は出穂10日前（幼穂長：8cm）にしっかり施用（窒素成分で1kg）して、食味・品質を向上させましょう。

※水管理、穂肥診断の詳しい資料は指導会資料（営農センター、振興局HP等）をご覧ください。



不明な点はJA営農センターまたは普及センターまでお問い合わせ下さい。

JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター